

## ウガンダの首都、カンパラの劇場に登場した「白人」

大 門 碧\*

### はじめに

「ナバタンジ!？」

若い女性が呼びかける。ウガンダの首都、カンパラでの私の名だ。カンパラの人口の半数を占める民族ガンダのルガヴェ (*lugave*: センザンコウ)・クラン<sup>1)</sup>に属する名前だ。ほぼ2年ぶりに調査を再開しようとしていた私に、「戻ってきたのに、なぜ連絡をよこさなかったのか」という責め言葉から、彼女、イヴァは挨拶を始めた。そこは、劇場ラ・ボニータの裏口だった。イヴァは、2年前、盛り場のステージで踊っていたが、今は、エイボニーズという老舗の劇団に入っていた。ラ・ボニータはその劇団の劇場である。彼女は、私を楽屋口まで連れて行き、思いつきの案を、看板役者、サムに話す。「この子(私)を舞台に出してみてもはどう? ガンダ語が話せるから、客が喜ぶ。」大柄でぎょろりとした目が特徴の大御所俳優は眠そうな顔で、「ま、考えてみる」とだけこたえた。数週間後、イヴァからのワンギリ。かけ直すと、「今すぐ来い」とのこと。そして気づけば、私はラ・ボニータの舞台に立っていた。「白人」役として。

大衆とともにあるエンターテイメント集団、エイボニーズ<sup>2)</sup>

1977年、エイボニーズは音楽を演奏するバンドとして活動を開始したが、不安定な政情によって、メンバーを失い、その後劇団として再スタートをきった。劇場での公演だけでなく、80年代半ばにはテレビで放映される連続ドラマを制作し、90年代半ばには、舞台道具をもって村落地域をまわり演劇を披露する活動も実施した。そして2006年にラ・ボニータをカンパラに完成させてからは、主にそこで公演するようになった。ラ・ボニータの観客席は、二階席も含めて757におよび、照明、音響などの舞台設備は、日本の劇場と勝負できるくらい質が高い。カンパラでは最新で一番豪華な劇場である。2010年2月現在、エイボニーズは役者以外に劇場の管理や、芝居を上演する際に使用する映像やテレビドラマを制作するスタッフを加えると70人を超える大所帯となっている。

息長く活動を続けてきたこの劇団は、ウガンダの演劇研究の中でも言及されてきた [Kasule 1998; Mbowwa 2000; Mirembe and Breitingner 2000]。Kasule [1998] はエイボニーズについて、時代背景にあわせて社会や政治問題の原因と解決方法を示す演劇をつくっていると指摘している。確かにエイボ

\* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

ニーズは、状況にあわせてパフォーマンスのスタイルや場所を変化させつつ活躍してきた。そんなかれらは、現在、人びとが日常的に抱く感情、愛や嫉妬などをテーマにした芝居をおこなっている。チケットは1枚2万ウガンダシリング<sup>3)</sup>と高い。このため、エイボニーズは高所得層向けとも考えられるが、かれらには民間会社がスポンサーについており、また各劇団員が知人を招待できる態勢にある。実際にメンバーが、無職の友人を劇場に呼んでいる姿を見た。誰もが目にするのでできるテレビドラマの制作もしているかれらのショーが、金持ちだけを意識してつくられているとは考えられない。エイボニーズは、大衆の感覚とともにある集団だと位置づけてよいだろう。

### 『マイ・バレンタイン』

私が参加することになったのは、バレンタイン・デーにあわせておこなわれる芝居『マイ・バレンタイン』(写真1)だったが、それは無論、恋愛がテーマである。この作品は「ロマンティック・ナイト」と呼ばれるスタイルをとり、登場人物の感情表現にはすべて歌がともなうというミュージカルのような様相をもつ。約3時間に及ぶ『マイ・バ

レンタイン』では、44曲の歌が使用された。そのうち、9曲はエイボニーズがかつて別のショーのためにつくった、ガンダ語(カンバラで日常的に使用される言語)で歌われるオリジナル曲であり、ほかはアメリカのヒップホップ、R&Bからカントリーミュージック、年代も1980年代から最近のものまで幅広く曲を選んで、物語の流れに沿って並べてある。1曲3分と考えると公演時間のおよそ7割以上が歌である。内容は5組のカップルをめぐるもので、1組を除いて、どのカップルも浮気が原因で危機が訪れている話である。このショーは2007年に制作したショーの再演である。私は、主な筋とは別に登場する男性のガールフレンド役をおおせつかった。この役は、前回の公演では北欧出身の白人女性が演じていた。

### 「白人」の役まわり

公演初日は2月14日の日曜日。その12日前、私は演出家カテンデ氏からエイボニーズのメンバーへ、「自分の娘」として紹介され、ショーへの出演を認めてもらった。カテンデ氏のクランと、私のガンダ名のクランが同じで、彼にナバタンジという娘がいたことも重なり、彼は私を「娘」と呼んだ。2月6

1) ガンダは、クラン(氏族)が基本的に外婚単位となる父系出自社会であり、子どもは父親のクランを継承する[Roscoe 1965: 82]。クランごとに名づける名前が決まっており、複数のクランに共通した名前は少ない。そのため、名前でクランを判断することができる。それぞれのクランにはトーテム(ルガヴェ・クランの場合は、ルガヴェ)があり、その動物を殺したり食べたりすることはできない[Roscoe 1902: 28-29]。

2) The Ebonies, Theatre La Bonita, & VCL Official Website <<http://www.vcl-theatrelabonita.com>>

3) 1千ウガンダシリング=44.72326円(2010年2月14日のレート)<<http://www.interq.or.jp/world/naoto/benricho/exchange.html>>参照。カンバラで1食分は2千ウガンダシリング程度、中級ホテルのレセプションで働く女性の月給は11万ウガンダシリング、会社員の月給は30万ウガンダシリング程度である。

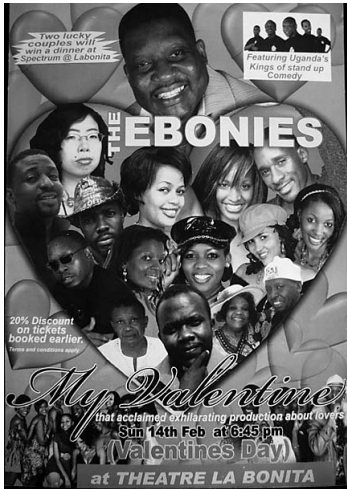


写真1 『マイ・バレンタイン』(2010年)のちらし  
 日が私にとっての稽古初日、その後、5日間、私の登場シーンを含めて今回の『マイ・バレンタイン』で新しく加えた場面の練習、そして全体の通し稽古をおこない、本番を迎えた(写真2)。

舞台下手から年輩の男3人が姿をあらわす。そのうちの一人が、「これまでにない素敵な女性を手に入れた」と自慢し、『白人の娘さん』<sup>4)</sup>を歌いだす。<sup>5)</sup>すると客席の後方からガンダの伝統舞踊を踊る女たちに囲まれて白人女性がやってくる。舞台上上がった彼女は、歌にあわせて踊る。歌が終わると、踊り子たちは去る。



写真2 劇場ラ・ボニータの舞台上上がった「白人」

前回のショーでは、白人女性はこの後すぐに英語の歌を歌い始めたが、私は「ガンダ語が話せる」ために呼ばれていたので、会話の場面が新しくつくりだされた。あらかじめ用意された台本はなく、カテンデ氏が提案する筋に、ほかの役者たちの意見が積み重なり、台詞が決められていった(以下、特に記載がない場合は、ガンダ語の台詞である)。

男1：(ほかの男たちに) この白人が、わしがおまえたちに手に入れたと話していた人だ。

白人：ううん、(日本語で) うち白人やなくて日本人。

男1：なんて？

白人：(日本語で) うち白人やなくて日本人！

4) ガンダ語の曲名は『Omwana w'omuzungu』。ガンダ語で歌われる人気の音楽のジャンル、カドンゴ・カム (kadongo-kamu) の代表的存在の歌手、パウロ・カフェーロ (2008年没) の楽曲。彼が実際に白人の妻と結婚したときに歌った曲。

5) 本文中で断りなしに「歌う」と書いている場合は、実際に生声で歌っているわけではなく、録音され

た歌に合わせて口と身体を動かす「ロバク」のパフォーマンスをしていることを指す。『マイ・バレンタイン』で歌われる歌は、すべて「ロバク」でおこなわれた。「ロバク」を中心においた芸能もカンパラで発達してきており、その芸能の成立過程や「ロバク」が受容される社会についての検討は、別稿でおこないたい。

男 1：(ほかの男たちに) 彼女、なんて言った？

男 2：(男 1 に) なんで、お前が俺たちに聞くんだよ？

男 3：(英語で) 自分の理解によると、(ガンダ語で) 彼女はこう言っている、「俺の頭はまるで大きい石<sup>6)</sup>のようだ」

白人：(両手を広げて腰を落として、カンフーを始めるような構えをする) ハッ！！

男性全員、逃げる。

男 2：わあ、彼女、怒った、怒った。

白人：そうは言ってない。私は白人じゃなくて日本人だって言ったの。

男 3：ちょっとまって、彼女、ガンダ語をしゃべってる？

白人と日本人を区別するように要求することを提案したのはカテンデ氏だった。そして「ガンダ語を話すことを客は想定しないから、すぐにしゃべるのはもったいない」ということで、最初は日本語で話すことになった。また、中国人ばい人たちは武術に長けているというのが、中国映画を楽しむウガンダ人の「常識」なので、「カンフー」をするように要求された。私は知らないのだと言っても、「おまえの知っているのをやればいい」と返

されるばかりだった。

白人：(客席にむかって) でもみなさん、私は聞きたい、なんであなたたちは色の白い人すべてを「白人」と呼ぶのか？

男 1：なんでおまえたちが色の白い人すべてを「白人」と呼ぶのかって聞いてるぞ。

白人：(客席にいる男性を指して) あ、そのあなた、来て、来て、こわがらないで、来て。

白人が客席にいた男性の手を引いてステージ上に連れてくる。

白人：あなたの名前はなんていうの？

客：自分の名は、カルンバです。

白人：カルンバ、クランはなに？

客：エンテ (ente：牛) です。

白人：エンテなの、私はルガヴェです。

男たち驚く。

男 3：(客席に) ルガヴェの人たち、元気？

普段の会話の中で、私が自分のクラン名をこたえと、人びとは「私たちのことをよく知ってるわねえ」と喜ぶ。さらに、相手が私と同じクランだったときは、カテンデ氏によ

6) 「日本人 (ニホンジン)」の発音と似ている「ekijinji (エチジンジ)」という単語を用いている。詳しい

意味は「車などを動かさないようにつかえさせる大きなもの (石など)」。

うに、「家族」としてのつながりをつくろうとしてくれる。男3が客席のルガヴェ・クランの人びとに呼びかけたのはこういうわけだろう。

『サガラ (Ssagala: 男の名前), サガラ』を白人が歌い、全員で踊る。踊り子たちも出てくる。白人と男1を先頭に、その後ろに踊り子たちが続いて客席後方へと去る。

私はガンダ語の歌を歌うはめになったのであるが、稽古の際、まずひとりの若い女性の役者が手本として歌い踊ってくれた。そのとき彼女は男1役の役者の腰に自分の腰を近づけて細かく振ったり、向き合った状態からぼんと跳んで相手の腰に自分の両足を絡みつかせて乗り、一緒に腰を振った。すると見ていた役者たちが手をたたいて叫び声をあげ、稽古場全体が揺れるような盛り上がりを見せた。明らかに性行為をあらわすこの動きは盛り場でのパフォーマンスでもよく見かけるが、男女を問わずに人びとを楽しませている。エンターテイナーとしての血が騒いだ私には、この動きを省くことはできなかった。

初日の3日前、劇場での通し稽古を終えた午後11時半、看板役者のサムが演じるところのヘンリーのガールフレンドのひとりとして私を再登場させてはどうかと、カテンデ氏が提案した。妻帯者であるにもかかわらず9人の女性とつきあっているヘンリーは、バ

レンタイン当日、全員との約束<sup>7)</sup>をうまくごまかすために、事故にあつて大怪我をしたフリをして、次々にたずねてくるガールフレンドたちを追い返すが、その直後に、帰ったはずの女性たち、そして妻までが姿を現すというクライマックスのシーンだ。翌日、さっそく台詞がつくられた。

舞台上ではヘンリーと彼の友人が立って話をしている。そこへ、白人女性が、下手から花束を持ってやってくる。

白人：(日本語で実際に歌う) ラブ、ラブ、愛を叫ぼう、愛を呼ぼう

ヘンリー：(あわてて車椅子に座りながら) 中国人、中国人、中国人…

白人：(ヘンリーが車椅子に座っているのを見て) (日本語で) ヘンリー、え、どないしたん、なにがあった…

ヘンリー：この中国人、ちょっと試してみようかなと思っただけなんだけど、害虫になりはててしまった。

友人：害虫？(白人にむかって、中国語の音を真似て) チョンチョンチョーン、チョン。

白人：(ヘンリーにむかって) ちょっと、まず、私は中国人じゃなくて日本人よ。本当にありがとう、しゃべってくれたこと全部。

7) カンパラでは、バレンタイン・デー (2月14日) は恋人と外出して楽しむ日である。よって、エイボニーズのようにこの日の集客力を狙って、ミュー

ジジャンのライブやショーなどを企画するところが多い。

友人：え？

白人：あんたは私を試そうとしていただけなの？ああ、そうなの、へー。しかも害虫って呼んだわね、害虫って、害虫って！！！！

白人女性、どなりながら下手へ去る。その後、ヘンリーたちが逃げようとしたとき、下手、上手から次々とガールフレンドたちが姿を現す。そして客席からは胴衣を着た白人が登場。最後に、ヘンリーの妻が舞台後方から登場する。

サムは私に「害虫（ガンダ語で *olukokobe*）」とは「人の皮膚にはりついて血を吸って生きる虫」だと説明した。普段は聞かない単語だったが、ガンダの民話には「害虫」という物語がある。そこでは若い男に母親のような親しみをおぼえさせて背負ってもらい、その直後男の身体に爪をくいこませて離れなくなる老女が登場する [Kiyimba 2001: 412-413]。「害虫」には、男にとりつく怪物的なイメージもあるのかもしれない。「白人」はその言葉に怒り、そして「カンフー」でヘンリーを倒しに行くことを決意したのだった。

#### おわりに

2 回の追加公演を含め、このショーは計 6 回おこなわれた。バレンタイン・デー当日は満席に近い客の入りだったが、それ以外の回は 3 分の 1 弱だった。それでも、1,000 人以上が 2010 年版の『マイ・バレンタイン』を

観て、そして私を観て楽しんだと思われる。

今回の「白人」が客の興味をひいたのはガンダ語を話したためだけではなくなかっただろう。自分が「白人」ではなく「日本人」であることを主張し、ガンダ民族を中心とした現地の社会を理解し（クラン名をもつ、性行為を示す踊りをする、「害虫」と呼ばれたことに怒る）、ウガンダの男を愛し、ウガンダの女の敵である男を憎んだ。そして「カンフー」も忘れない。日本人（中国人）のイメージを強調したり、地元に近いことが、今回登場した「白人」を娯楽性の高いものに仕上げたのだと思う。そして、このショーで要求された役まわりをこなして人びとに笑ってもらった私は、「白人」でありながらも、このカンパラ社会とともにある方法があるような気になってしまったのである。

本文に記した台詞は、2010 年 2 月 28 日（日）に撮影されたビデオから、筆者が聞き取り訳したものである。いくつかの台詞は、紙幅の関係で割愛している。

#### 引用文献

- Kasule, S. 1998. Popular Performance and the Construction of Social Reality in Post-Amin Uganda, *The Journal of Popular Culture* 32(2): 39-58.
- Kiyimba, A. 2001. *Gender Stereotypes in the Folktales and Proverbs of the Baganda*. A thesis submitted in fulfilment of the requirements for the degree of Doctor of Philosophy (Literature) of University of Dar es Salaam.
- Mbowa, R. 2000. Luganda Theatre and its Audience. In Eckhard Breitingner ed., *Uganda: The Cultural Landscape*. Kampala: Fountain Publishers, pp. 204-223.

Mirembe, M. Ntangaare and E. Breitinge. 2000. Ugandan Drama in English. In E. Breitinge ed., *Uganda: The Cultural Landscape*. Kampala: Fountain Publishers, pp. 224-249.

Roscoe, J. 1902. Further Notes on the Manners and Customs of the Baganda, *The Journal of the*

*Anthropological Institute of Great Britain and Ireland* 32 (Jan.-Jun.): 25-80.

\_\_\_\_\_. 1965. *The Baganda: An Account of their Native Customs and Beliefs*. Second edition. London: Frank Cass & Co. Ltd.

---

## タイ、混乱の最中から

日向伸介\*

東南アジア大陸部の上座仏教国では、盛夏にあたる4月に新年を迎え「水かけ祭」が各地で催される。筆者は2009年からタイの首都バンコクに滞在しており、この祭を楽しみにしていた。ところが、2009年は元日4月13日を目前に「非常事態宣言」が発令されたため、お祭り気分も一気に吹き飛んでしまった。2010年も直前に非常事態が宣言された。タイの政治・社会は混迷を極めている。以下では、この1年間の経緯を簡単に書きとめたあと、所感を若干述べることにしたい。

事の発端は、2006年9月19日に発生したクーデタにさかのぼる。タクシンを首班とする政権は崩壊し、暫定軍事政権が成立した。ところがクーデタの意図とは裏腹に、2007年12月におこなわれた総選挙ではタクシン派政党が勝利を収めて政権を回復した。これを機に、反タクシン派デモ隊「民主主義のための国民連合」（通称「黄服」。

黄色はプーミポン現国王の誕生色に由来する）が活動を再開し、首相官邸や国際空港を占拠した。結局、司法の政治介入と野党の多数派工作の成功により、民主党のアピシット政権が2008年12月に誕生した。

2009年4月の非常事態宣言は、タクシン派デモ隊「反独裁民主戦線」（通称「赤服」。赤色はタイ国の三色旗のうちの一色で、民族を表す）の活動が原因であった。赤服は、アピシット政権を非民主的だと糾弾し、解散総選挙を迫った。当初の活動は、主にバンコク市内での大規模集会や首相官邸包囲であった。しかし活動はやがて激化し、4月11日には東南アジア諸国連合会議の会場となっていたパッタヤーのリゾートホテルに乱入し、会議を中止に迫りやめた。一方バンコク市内では、バスやタクシーで道路を封鎖した。政府は12日に非常事態宣言を発令し、14日にかけて軍が強制排除を決行した。

騒動が落ち着いたかにみえた17日未明、

---

\* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科